

8月16日 (日) サムエル記下 23章	「神と共にあってわたしの家は確かに立つ。神は永遠の契約をわたしに賜る／すべてに整い、守られるべき契約を。わたしの救い、わたしの喜びを／すべて神は芽生えさせてくださる」(5節)。これはダビデの最後の言葉。これが受け継がれていけばソロモン、そしてレハブアムに王権が引き継がれても揺るぎなかったはずだ。信仰を引き継ぐのは難しい。
17日 (月) サムエル記下 24章	「主はこの国のために祈りにこたえられ、イスラエルに下った疫病はやんだ」(25節)。ダビデの人口調査に怒られた主はイスラエルに疫病をもたらし、7万人が死んだ。ダビデはアラウナの麦打ち場で御使が民を打つのを見て「わたしが悪かったのです。この羊の群れは何をしたのでしょうか」と言って、そこに祭壇を築き、和解の献げ物をささげ、疫病はやんだ。
18日 (火) 列王記上 1章	「祭司ツァドクは天幕から油の入った角を持って出て、ソロモンに油を注いだ」(39節)。アドニヤが思い上がって王となったが、預言者ナタンはソロモンの母バト・シェバと共に、ダビデ王に王の後を継ぐのは誰かと問うた。ダビデ王は「ソロモンに油を注いでイスラエルの王とせよ」と宣言し、ことが成就した。人の思惑ではなく、主のご計画が成る。
19日 (水) 列王記上 2章	「あなたの神、主の務めを守ってその道を歩み、モーセの律法に記されているとおり、主の掟と戒めと法と定めを守れ」(3節)。これは死期が近づいたダビデ王のソロモンに対する最後の言葉。これに従えば、イスラエルの王座につく者が絶たれることはなかった。しかし、ソロモンはたくさんの外国の女性たちを愛し、彼女たちの神々に向かい主を怒らせた。

20日 (木) 列王記 上 3章	「見よ、わたしはあなたの言葉に従って、今あなたに知恵に満ちた賢明な心を与える」(12節)。主がソロモンの夢に現れ、「何事でも願うが良い、あなたに与えよう」と言われた。その時、ソロモンはイスラエルの多くの民を適切に裁く知恵を求めた。主はこれを喜び知恵を与えられ、そして求めている富と栄光も与えた。しかしその大いなる富が躓きとなったか。
21日 (金) 列王記 上 4章	「ソロモンはイスラエル全国に十二人の知事を置いた。彼らは、王と王室の食糧を調達した」(7節)。ソロモン王には十分な高官がいた。祭司、書記官、補佐官、軍の司令官、知事の監督、宮廷長、労役の監督など。それぞれに役割分担をしっかりとさせ、さらに十二人の知事において、大切な食糧調達をしたという。これが国の繁栄の基礎となったのだろう。
22日 (土) 列王記 上 5章	「神はソロモンに非常に豊かな知恵と洞察力と海辺の砂浜のような広い心をお授けになった」(9節)。ソロモンの在世中はダンからベエル・シェバに至るまで、どこでも安らかに暮らせたほど平和であった。それは、軍事力だけで民を服従させるのではなく、豊かな知恵を持って民を裁いたためだろう。そして、十分な管理のもと神殿の建築に取り掛かっていく。
23日 (日) 列王記 上 6章	「神殿の建築は、石切り場でよく準備された石を用いて行われたので、建築中の神殿では…音は全く聞こえなかった」(7節)。神殿建築のために労した多くの技術者、労働者たちを想う。彼らは「主なる神を礼拝する建物のために」と一つの石を切り出すことにも祈りを込めて丁寧な仕事をした。今日、わたしに託された、神礼拝の奉仕に祈りを込めてあたりたい。